

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



3月21日、高槻市番田水路沿いを歩いてバードウォッチング。桜が開花し、春の花々の観察も楽しんだ。

Contents

- 第29回総会のご案内 P2
- 大同緑化協力25年の軌跡 P3
- GENなんでも勉強会・GEN自然と親しむ会参加者募集 P4
- GEN会員によるリレーコラム P6
- 黄土高原紀行 P7



GEN公式サイトリンク

2023.5

211

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



緑の地球ネットワーク 第29回総会のご案内

6月17日、緑の地球ネットワーク第29回総会を開催します。会場とオンラインでの参加が可能です。会員のみなさまには、総会に提案する文書を近日中に発送しますので、お読みになったうえで同封の返信はがき、またはe-mailにて出欠のご連絡、欠席の場合は意思表示か委任状の提出をいただくようお願いいたします。

GENは30年以上にわたり、国境を越えた緑化協力を続けてきました。会員を長く続けている方が多くおられるこ

とは大変ありがたく、感謝しています。その分会員の年齢も上がり、30代以下の会員が少ないのが現状です。若い層にGENの活動が浸透するにはどうすればよいか、若手の世話人を中心に検討を重ね、スマホでも見やすいHP作り、SNSやYouTubeの積極的な利用など、従来より幅広い層に届けるための取り組みをしてきました。

また、国内での環境問題とともに学ぶ活動として、月1回開催しているGENなんでも勉強会、国内でのスタデ

イツアーの開催など、今年度も国内で参加しやすいイベントを計画します。総会でこれらの取り組みを共有し、ご意見をいただきたいと思います。みなさまのご参加をお待ちしております。

- 【緑の地球ネットワーク第29回総会】
- 日時：6月17日（土）13時30分～16時30分ごろ
- 会場：大阪産業創造館5階研修室 A・B（大阪市中央区本町1-4-5 tel.06-6264-9911 大阪メトロ中央線・堺筋線「堺筋本町」駅1番出口より徒歩5分）またはオンライン（Zoomを使用）
- 記念講演：13時30分～15時『鳥たちの不思議な能力と里山のシンボル「サシバ」の生態・保護・保全の実態』
- 総会：15時10分～16時30分
- ※総会終了後、会場近くの居酒屋で懇親会を予定しています。詳細は総会資料に掲載します。

GEN第29回総会記念講演 鳥たちの不思議な能力と里山のシンボル 「サシバ」の生態・保護・保全の実態



第29回総会記念講演は、GENの中国での野鳥調査にご参加いただいている大西敏一さんをお招きし、お話をうかがいます。大西敏一さんは35歳で鳥と関わる世界に入り、国内外の野鳥調査に飛び回っておられ、『決定版日本の野鳥650』（平凡社創業100周年記念出版）ほか、ご著書も多数あります。

白亜紀末からの生物大絶滅をかいぐり、生き残った鳥類。多様な進化を遂げることで、今や最も繁栄した鳥たちは、現在全世界で1万を超える種が生息しています。彼らは様ざまな環境に順応する体を獲得することで、高山から海洋、熱帯から極寒の地まで世界中のあらゆる場所に住み、鳥が通わぬ場所を探すのが難しいほどです。そんな鳥たちに秘められた驚異的な能力と体の仕組みなどを知ることで、多様性の持つ意味を実感できるでしょう。

また、大西さんは里山を代表する猛禽類であるサシバの調査に携わってお

られます。渡り鳥でもあるサシバは近年全国的に減少の危機にあり、大阪府でも絶滅の恐れのある鳥の一つになっています。本種の生態や生活史、彼らを取り巻く現状と大西さんが関わった大阪府内の生息状況調査をご紹介いただき、生物多様性の大切さとサシバの保護・保全を考えます。

- 講師：大西敏一さん（バードコンサルタント）
- 参加費：無料
- 会場：大阪産業創造館5階研修室 A・Bまたはオンライン（Zoomを使用）
- 申込：以下のいずれかの方法でお申込みください。
- ①6月15日（木）までにメール（gen@gen-tree.org）またはGENホームページ（<https://gen-tree.org/participate/>）より申込み。メールは件名を「総会記念講演参加希望」とし、本文にお名前、会場参加かオンライン参加かを明記してください。
- ②6月16日（金）までにイベント管理サイトPeatixより申込み（<https://gensoukai2023.peatix.com/>）

東北海岸林 再生活動

4年ぶりに東北海岸林再生活動ツアーをおこないます。これまで植樹した海岸林のマツは元気に育っていますが、ゆりりん愛護会によるとクズなどの草が茂り、その管理が大変とのこと。東北の今を知り、植栽地での作業に参加しませんか。

- 日程：9月2日（土）～9月3日（日）
- 定員：8名
- 内容：ゆりりん愛護会の植樹現場視察・作業、被災地見学
- ※詳細は次号に掲載します。参加希望の方はGENまでご連絡ください。



大同緑化協力25年の軌跡 アブラマツ（油松）とモンゴリマツ（樟子松）

GENの山西省大同市での25年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で36回目です。（高見邦雄）

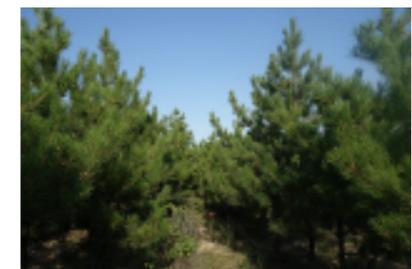
大同で数多く植えた樹種はなんといってもマツです。見本園に少数植えたものを除けば3種です。

いちばん多かったのはアブラマツ（油松、Pinus tabulaeformis）です。大同に自生する樹種で、渾源県の北岳恒山には樹齢数百年の古木が存在しますし、各地の仏教寺院や道教の道観にも古いものがあります。近年の緑化でもっともよく使われているのがこのマツです。

どのマツもそうですが、乾燥と痩せ地に強いのが最大の特徴で、落ち葉や枯れ枝が土を肥やすと逆に弱ってしまうのだそう。日本の松枯れでも、土地が肥えたために樹勢が弱ったところを、カミキリムシとマツノザイセンチュウによって枯らされたと言われます。大同の農村では落ち葉も枝打ち材も生活燃料として徹底的に利用されますので、その点は心配ありません。

油松には戦前の和名「マンシュウクロマツ」がありました。ところが同じ油松にアカマツふうがあって、それには「マンシュウアカマツ」という名札を付けたけど、やっぱりおかしいと取り外したそう。六甲山の神戸市立森林植物園での実話です。

2000年ごろまでは2年生で地上部10～15cmほどの小苗を、1haあたり3300本も植えていました。こんなに密植して大丈夫なの？ 日本ではスギ、ヒノキ



大同の自生樹種アブラマツ

が間伐されないで荒廃していると心配された方がありました。でも大同では根元の直径が10cmになれば、垂木材などとして利用され高価ですので、その心配はなさそう。

河北省蔚県でもそうですが、近年は4～5年生のポット仕立ての大苗を植え、そのかわり本数を1haあたり1230本に減らしています。

もう一種類のマツがモンゴリマツ（樟子松、Pinus sylvestris var. mongolica）です。ユーラシア大陸に広く分布するオウシュウアカマツの変種で、中国では大興安嶺などに自生しています。

緯度にして10度も北の樹種ですので、温暖化が進むなかで心配な面もありますが、生育が速く材が真っ直ぐなのが魅力で、北部の大同県、陽高県あたりに導入されています。私たちもたくさん植えてきましたが、いまのところ問題はなさそうです。

実験林場カササギの森は西北からの強風の吹き出し口で、風口と呼ばれます。最近ではすぐ西隣りに大型の風力発電機が林立するようになりました。風に揺さぶられると、アブラマツは縦



成長が速くまっすぐなモンゴリマツ

に伸びるのをためらい、横に枝を広げますが、モンゴリマツは問題なく伸びていきます。

ほかにカラマツ（華北落葉松、Larix principis-rupprechtii）がありますが、大同では海拔1600mより低いところでは生育がよくなく、私たちはあまり植えてきませんでした。

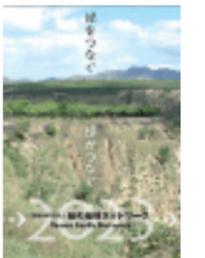
大同での緑化協力についてYouTubeで動画を配信しています。右のQRコードよりアクセスできますのでぜひご覧ください。



ご活用ください！新パンフレット

前号と一緒に送りましたGENの新しいパンフレット、ご覧いただけましたでしょうか？ 見ていただいた方からは「写真が多くて読みやすい」「活動を俯瞰できる」などの感想が寄せられています。このパンフレットがきっかけでGENの活動を知ってもらい、活動に加わってくれる方が一人でも多く増えることを期待しています。お友達な

どにGENを紹介する最初のツールとしてぜひご活用ください。周辺に配架が可能な施設やイベントがあるようでしたら送りますので、必要部数をGENまでご連絡ください。





6月、7月のGENなんでも勉強会オンライン、GEN自然と親しむ会のご案内です。右のQRコードからもお申込みいただけます。



GEN自然と親しむ会

前中代表と歩く野の道シリーズ⑩
初夏の大仙公園を歩く

堺市にある大仙公園は仁徳天皇陵古墳と履中天皇陵古墳周辺に位置する緑豊かな公園です。4月の大仙公園での自然と親しむ会が雨で中止となったので、あらためて同公園で自然と親しむ会を開催します。初夏の自然観察を楽しみましょう。園内にある日本庭園にも立ち寄ります。

○日時：6月3日（土）10時～15時ごろ
○場所：大仙公園（堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁目）
○案内：前中久行さん（GEN代表）
○参加費：700円（保険料を含む、別途、日本庭園の入園料（大人200円）がかかります）
○定員：20名（先着順）
○持ち物：歩きやすい服装と靴、弁当、飲み物、敷物、帽子
○申込み：5月30日（火）までにGEN事務所までお名前、生年月日、連絡先をお知らせください。
※小雨決行

GEN自然と親しむ会

紫金山公園で
里山整備

吹田市にある紫金山公園で里山の保全活動に参加しませんか。紫金山みどりの会にご指導いただき、里山整備と自然観察をおこないます。

○日時：7月8日（土）9時～15時ごろ
○場所：紫金山公園
○指導：紫金山みどりの会
○集合：9時にJR岸辺駅北口改札
○参加費：無料（ボランティア保険加入済）※昼食時に豚汁代100円をお支払いください。
○定員：15名（先着順）
○持ち物：作業しやすい服装（長袖・長ズボン）、歩きやすい靴、帽子、弁当、豚汁用お椀、飲み物、敷物、軍手、タオル、あれば鎌、ヘルメット（作業道具・ヘルメットは現地で準備します）
○申込み：7月4日（火）までにお名前、生年月日、連絡先をGENまでお知らせください。GENホームページからお申込みいただけます。

**GENなんでも勉強会
オンライン 7月
知ると楽しい
公園のあれこれ**

日本の公園制度の始まりとされる明治6年（1873年）の「太政官布達」が発せられてから、今年で150年を迎えます。この節目の年、意外と知らない日本の公園制度や、堺市にある浜寺公園の歴史などについて、GEN代表の前中久行さんにお話しいただきます。

○日時：7月27日（木）19時～20時30分ごろ
○手段：ウェブ会議システムZoom
○講師：前中久行さん（GEN代表）
○参加費：無料
○定員：100名
○申込み：以下のいずれかの方法でお申込みください。
①7月25日（火）までにメール（gen@gen-tree.org）またはGENのホームページより申込む。メールの場合は件名を「7月オンライン勉強会参加希望」とし、本文にお名前を記入してください。
②7月26日（水）までにイベント管理サイトPeatixより申込む（https://gennandemo22.peatix.com/）

山の暮らしをより身近に

吉房 睦美さん（大阪府）

4月19日、GENなんでも勉強会オンライン「京都西山ヘッポコ猟師のものとり話」をおこない、22名が参加しました。講演のようすはYouTubeで配信しているほか、GEN会員の方はホームページの「会員さま限定ページ」でご覧いただけます。

猟師さん、ということで、筋肉もりもり、マッチョで熊のような…というイメージをしていました。が、熊どころか、タヌキでも負けそうなやさしい雰囲気の方でびっくり。しかも、ハイテク系の企業のお勤めと平行して、「美味しいものを食べたい」「作物を取られて悔しい」「狩猟したらええやん」「じゃあ、猟をやるか」というシンプルな流れで猟師になられたということに、二度びっくり。そのうえ、結構な年齢から山ぐらしを始められて、びっくりを超えて、尊敬です。今まで

猟師さんの著書やお話は、どれだけ大変か、お前らには無理！という雰囲気プンプンなものばかりでしたが、「楽しんでる」「こんなに贅沢はない」と、本当に楽しそうに暮らしぶりをお話しくんだり、ワクワクしてお伺いすることができました。

そのなかでも、問題提起やご苦労もあり、野生動物との共存についての難しさを実感しました。イノシシがすべてを食べきらず、一番よい状態の白菜を残しておいた、というエピソードからは、そこから人が種をとって、また

作付けし、それを食べることができるとイノシシの生存の知恵なのか、不思議な気がしました。翌年はどうなったのでしょうか。

ドローンなども活用しながら、狩猟ができる時代。都会の若者や親子も、実際に体験ツアーのようなことができれば、自然のこと、命のこと、里山のことなどなど、学べると同時に、新しい発想も生まれ、山と人との関わりにもっと目を向けるようになるかもしれない、と思いました。



報告 草地の生き物を守るには

永野 正弘さん（GEN会員）

3月22日、GENなんでも勉強会オンライン「失われゆく草原の生き物たち～これまでとこれから：自然史と生態学の窓から～」をおこない、27名が参加しました。講演のようすはYouTubeで配信しています。YouTubeは3ページのQRコードからアクセスいただけます。GEN会員はホームページの「会員さま限定ページ」で質疑応答部分までご覧いただけます。

最初、話を聞いているときには、私の想像力欠如のためか、バラバラな知識が次々出てくるといった印象でした。YouTubeで聞き直し、合点しました。内容は多岐にわたり、この紙面では一部しか紹介できません。

興味を持った研究例1：ゴマシジミ属の蝶は近年減少してきている。一つには蝶のコレクターによる乱獲がその原因であるが、他方食草の減少にも依る。ゴマシジミは幼虫段階にはワレモコウを食べる。4齢になるとシワクシケアリというアリの巣に移動し、アリの幼虫を食べるか、アリの成虫から口

移しに餌をもらう。ゴマシジミが生産し続けるにはワレモコウとシワクシケアリの生息が必須である。ワレモコウには湿地環境が必要、一方ゴマシジミには湿った土が必要。乾燥しないように樹林にならないように管理する必要があるそうです（古河義仁さんのインターネット記事で一部補足）。

興味を持った研究例2：シダレグリ（枝垂れ栗：国指定天然記念物）の林の下刈りをしないと樹木が侵入してシダレグリが減少した。今は草刈りをして林は回復しているそうです。

以上二つの例はいずれも、堆肥や飼

料の原料として、刈り取られていた草地で生息できていた植物が、放置されて生存が脅かされてきた話です。

日本は全域が温暖で雨量が多く、放置すると森林になります。草地は多くの場合農業、畜産、屋根葺き、道具作成、など日常生活に使うため刈り取られ、目的に合う草地を維持するために火入れなども行われました。いま、これらの需要が減って維持作業がされないだけでなく、火入れなどの技術も継承されにくくなった。「草地の維持作業（＝遷移を妨げる方策）を見つけ出すことが急務である。そのための研究をやっている」というのが講師の大窪久美子さんの信念なのでしょう。

報告 水路沿いの野鳥を観察してみると

向井 美香さん（GEN世話人）

3月21日、GEN自然と親しむ会「高槻市番田水路でバードウォッチング」をおこないました。高田みちよさんにご案内いただき、13名が参加しました。

当該地域は、現在は住宅や小工場などが多くみられますが、古よりは水田地帯。川に挟まれ水には恵まれたものの排水の便が悪く、改良のために豊臣秀吉の時代から用・排水路が作られていました。その一つが今回のフィールド「番田水路」です。

講師をされた高田みちよさんは高槻市立自然史博物館の主任学芸員で、学生時代は植物を専門とされていたと聞きましたが、「小鳥の嘴に指を噛ませたい」「カラスに蹴られてみたい」など、解説の途中のふと漏れ出るつぶやきに、一方ならぬ鳥ラブが感じられました。

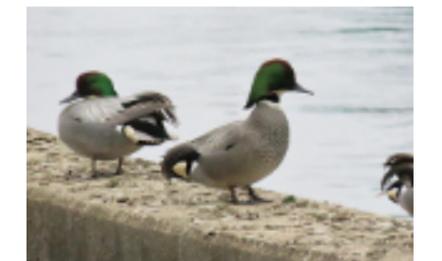
高田さんの「名前や種類にこだわるより、何をしているかを観察してみてください」とのアドバイスからウォッチングスタート。水路は車道や歩道のすぐ脇をめぐっているので人に慣れて

いるのか、鳥たちは13人のぞろぞろ歩く足音にも、じろじろ眺める視線にも少しも動ぜず、「もっとよく見て欲しいカモ」と、水路の真ん中で用水と排水をわけている堰の上に飛び乗り並んでポーズをとるカモたち。

後半は水路にそって整備された玉川緑地の遊歩道を散策。松尾芭蕉が「卯の花や 暗き柳の およびごし」と詠んだという碑があり、景勝の地であったことを物語っていました。遊歩道を挟んで土手から水路に枝を伸ばす桜が花を咲かせ始めており、また、花は終っていたものの水仙の群生やレンギョウ、雪柳の大きな株、けやきの花も見られ、鳥だけでなく季節の花も満喫。

観察できた鳥は、オナガガモ（メス）、コガモ、ヒドリガモ、カルガモ、ヨシガモ、ホシハジロ、キジバト、ドバト、カワウ、アオサギ、コサ

ギ、オオバン、イソシギ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、シジュウカラ、タヒバリ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、ハクセキレイ、キセキレイ、カワラヒワ、イカルでした。



人間の視線にまったく動じないヨシガモ

**自然と親しむ会
中止しました**

4月15日（土）に予定していたGEN自然と親しむ会「春の大仙公園を歩く」は雨天のため中止しました。6月3日（土）に同公園で自然と親しむ会を行いますのでぜひご参加ください。



**バトンを GEN 会員によるリレーコラム
繋ごう！ 第5回 第二の人生、始めました
鶴田惇さん（山梨県）**

GEN 会員がそれぞれの思いをリレー形式でつなぐコラムです。読んでの感想や、次号にご執筆いただける方を募集しています。

勤めていた漢方メーカーを退職し、この4月より、信州大学医学部生になりました。前職で興味が深まった漢方が人体に効くメカニズムの解明や、過疎化が進む農山村での地域医療に貢献できる医師を目指したいと思います。アルプスが一望できる静かな環境で勉強しながら、背中を押してくださった家族、会社の同僚、GENのみなさまに感謝しています。

特に関東ブランチの方々には、受験前後に励励会・慰労会を開いていただくなど、大変気にかけていただきました。少子高齢化というネガティブに語られることがほとんどですが、私の場合、特にGENの活動では恩恵を受けてきたと感じています。二回り三回り、場合によっては五回りくらい年上の偉大な人生の先輩方とじっくりお話し、

多くの刺激をいただいた経験は、若者が少なかったからこそのものだと思います。

世話人になってからは、若手として、若手をどう取り込むかを自分の中で課題としてきました。自分が恩恵にあずかっているからこそ、周りの同世代にも、この環境に入ってきて欲しい。そう友達にも語りかけるものの、なぜか、この魅力はなかなか伝わりません。私が難なく溶け込めたのは、おじいちゃん子だったことと、そして何より白酒を美味しいと思ったことが大きかったのかもしれない（笑）。

期せずして今、私より一回り若い学生と日々過ごしています。仲良く話せる友達もできました。クラス全体を見ると、コロナ禍の影響もあってか、大人しく、省エネモードで過ごそうとし

ている人が多いように思います。気になる言葉は「コスパ」です。授業を選ぶとき、課外学習に参加するとき、将来について語るとき、この言葉が飛び交います。「情熱のない人生なんて面白くない!!」これは私が医学部受験を決めた際に、GENの方からかけていただき、大いに励まされた言葉です。せっかく同級生になったので、若い学生の情熱に火をつけて回り、あわよくばGENにも引っ張ってきたいと思います。

最後になりますが、今年で33歳になります。「三十而立」といいますが、社会的に自立するのはもう少し先になりそうです。ただ、国境を越えて世界を良くしたい情熱は忘れずに、日々一生懸命に過ごしていきたいと思いません。皆さま、今後とも叱咤激励、よろしくお祈りします。



信州名物五平餅さっそく食べました

**i-Tree の講習に
参加しました**



以前、GENなんでも勉強会オンラインでご紹介したi-Tree。4月9日に千葉大学の加藤頭先生のご指導の下で体験してきました。i-Treeは都市の街路樹がどれだけ地球環境に役立っているのかを試算するしくみです。屋外で街路樹のデータ測定を行った結果から、その地域に街路樹が存在することによる二酸化炭素の吸収効果や雨水流出量の削減効果などを試算できます。

近いうちにGENのイベントでi-Tree

を体験していただく機会を設けたいと思っています。（長坂）

**ハッピーアースデイ大阪に
参加しました**

3月25日、コロナ禍からかつての日常が戻りつつあることを感じつつ、八尾市久宝寺緑地にて開催されたハッピーアースデイ大阪に参加しました。

今回はインターン生の山崎さんが夜なべして作ったストラップを用意し、クイズに答えてくれた方にプレゼントして大好評。当日の天気は曇りで、人の入りは多くはなかったものの、来場者はもちろん好評だったクイズと手作りストラップ



ん、他のブース出展の方、アースデイのボランティアスタッフのみなさんとも交流を楽しむことができました。

今回は出展準備からインターン生に関わってもらい、TwitterやInstagramでイベントの様子を即座に配信するなど、新たな試みに挑戦することができました。

**GEN インターンシップ
参加者募集**

2023年度より、大学生・大学院生のインターン生を募集します。GENの活動に参加し、課題解決に取り組んでみませんか？ご興味のある方、過去のインターン生の活動を知りたい方はGENホームページ (<https://gen-tree.org/participate/?id=internship>) をご覧ください。右のQRコードからもアクセスできます。



黄土高原紀行<14>

四、懸空寺と応県木塔（3）

谷口 義介（GEN 会員）

ちなみに、中国史上もっとも巨大な木塔といえば、北魏のとき洛陽に存在した永寧寺の仏塔で、高さ150メートル。この高さが木造建築の限界といわれ、これほどの高塔になると1本の心柱では支えきれず、塔の中心部は4本の柱を一組にして方形に配置した16柱で造られていた（発掘調査の結果による）。534年、落雷により炎上。火は3ヶ月も燃えつづけたという（『洛陽伽藍記』巻一）。

その後、これをしのぐ高塔は出現せず、また木造にかわってレンガ造りの仏塔がしだいに多くなる。その一因は華北における森林の減少にあった、といえるかもしれない。

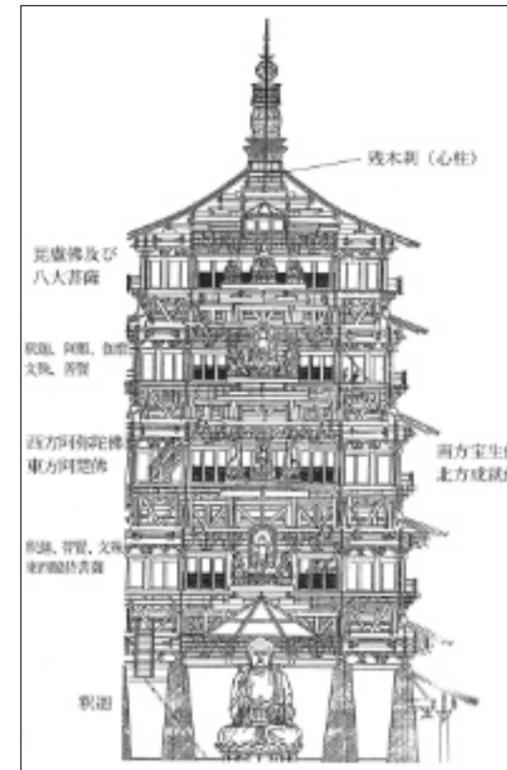
話をもどして、応県木塔の入口から中に入ってみると、正面に高さ11メートルの釈迦如来の塑像。この塔が釈迦塔とよばれるゆえんだ。暗層の階段を二階に上がると、ここにも文珠・普賢の2菩薩を脇侍とした釈迦牟尼仏。三

階には東・西・南・北に面して四方仏が配される。最上の回廊に出ると、眼下に周囲の風景が鳥瞰できる。前面（南側）に観光開発のための急造りの商店街路、三方には農地がひろがり、家屋が点在。直下の大雄宝殿のあたりに僧侶らしい人影は見えない。

午後おそく、応県木塔をあとにして、五台山へと向かう。ガイドはこの時、大同の旅行社の男性から、太原の旅游会社の男性社員に交替。私が属しているNPO「緑の地球ネットワーク」主催のワーキング・ツアーでも使ってもらった、と喜んでいた。

バスは繁峙から滹沱河にそって行き、その支流をさかのぼる。これは五台山巡礼4道のうちの北道で、東台の裾をへて中心部の台懷鎮をめざすコースだ。

そもそも五台山は、中央と東・西・南・北の五つの峰がそびえ、それぞれの山頂が平らで樹木もなく、台形をしているので、これを総称して五台山という。夕刻、このうちの東台をめざすが、霧が出て眺望がきかず、頂上の望海峰（海拔2795メートル）は見えない。そのうえ寒い。すぐバスにもどって坂道を下り、山ふところの台懷鎮へ。ここを台内といい、多くの寺廟が集中している。



応県木塔断面図
上田篤編『五重塔はなぜ倒れないか』（新潮社、45ページ）

すでに夜の7時。ところがバスはホテルに直行せず、五台山茶芸館というのに案内される。もちろんガイドとこの店のあいだに話ができていて、お腹は空くは腹は立つは。しかし中国茶が好きとあって、つい石竹茶なるものを買ってしまう。帰国後、飲んでみて失敗とさとしたが、後の祭り。

夜は銀都山荘というホテルに宿し、おそい夕食。今回参加のメンバーは、30名のほとんどが初対面。4つの円テーブルに分かれるが、私の差配で左党は一卓に集まる。おとなしくビールから始めるが、中国語で「一杯やろう」は「一杯、もう一杯」が「再干一杯」だと教えると、メートルが上がるにつれ、「再干一杯」がしきりに飛び交うようになる。

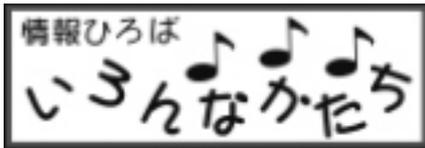
ビールのつぎは汾酒。山西省を縦断する汾河ぞいで造られるから、この名がついた。蒸留酒で、40度から60度まで各種。原料はコウリャン。瓜の香りのような清涼感があるのは、酢酸エチルの作用による。1917年、パナマ万博で金賞を受けた。貴州省の茅台酒、浙江省の紹興酒と並ぶ中国の三大銘酒の一つだ。山西省に来たからには、飲まざるべからず。

ザイガンイーベイ！

万年中国語学習者のつづやき



2022年に産まれた子供の名前ランキング1位は、男の子が碧、女の子が陽葵だそう。名に込めた親の思いが垣間見れますね。ところで中国で一番多い名前をご存じでしょうか？なんとなく気になって検索してみたら出てきました。2019年のデータですが張偉さんが最も多く、王伟、李娜と続きます。なんと約30万人の張偉さんがいるんだとか。中国には張さんも王さんもたくさんいるので必然的に人数が増えるのかもしれませんが、桁の多さにびっくり。日本で同姓同名の人に会ったら「奇遇な！」となりそうですが、これだけいると「ふーん」くらいの感想になるかもしれませんが。みなさんのお知り合いに張偉さんは何人いますか？（河本）



2030年に向けて
持続可能な開発目標
木材利用と森林保全を考える
シンポジウム

森林保全、木造建築の学童施設建設推進、森の調査・計測、木材のバイオマス活用などさまざまな視点から地球温暖化対策の理解を深めるシンポジウムです。

- 日時：2023年5月25日（木）13時30分～17時
- 場所：大阪商工会議所4F会議室・オンライン（Zoomを利用）
- 内容：基調講演「関西の森をモリアゲよう」長野麻子（株式会社モリアゲ）／SDGs環境ビジネス事例発表「学童保育施設の木造化推進の取り組み」鈴木健一（森と子ども未来会議）、「森林資源の見える化サービスと森林の活用について」井手田尚登（東京パワーテクノロジー株式会社）、「バイオマス熱利用でエネルギーの脱炭素と地産地消」柳樂行宏（日本アジアLCA研究所）／パネルディスカッション
- 参加費：会場・オンラインともに2,000円
- 定員：会場100名、オンライン100名
- 申込み：以下のページよりお申込みください。<https://peraichi.com/landingpages/view/nhgpi?Ga=2.121432141.438176989.167722699>

* 当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
* 当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

4-194865508.1610953921

右のQRコードからもアクセスいただけます。



- 主催：関西SDGsプラットフォーム環境ビジネス分科会／（一社）エコビジネス推進協会
- 問合せ：（一社）エコビジネス推進協会（大阪市中央区本町1-5-7西村ビル205 E-mail: sdgs@eco-b.or.jp tel.06-6261-5380）

- 申込方法：気候ネットワークホームページ (<https://www.kiconet.org/event/2023-05-29>) よりお申込みください。
- 主催・問合せ：NPO法人気候ネットワーク京都事務所 tel.075-254-1011 fax.075-254-1012 E-mail: kyoto@kiconet.org

気候ネットワークウェビナー
世界の気候訴訟最前線
一問われる司法の役割

気候変動による影響で、世界で気候訴訟が起こされています。日本で気候訴訟に関わる弁護士が世界の気候訴訟の最新動向を報告します。

- 日時：2023年5月29日（月）18時～19時30分
- 開催方式：オンライン（Zoomウェビナー）
- プログラム：「拡大する気候訴訟の役割（これまでとこれから）」増本志帆（弁護士）／「国と企業の気候危機回避は法的義務に」浅岡美恵（弁護士・気候ネットワーク代表）／「企業のグリーンウォッシュを追求する弁護士たち」小島寛司（弁護士）／「気候訴訟を支える科学とNGO」杉田峻介（弁護士）
- 参加費：無料

小夏とはちみつ
いかがですか

土佐小夏の季節です。今年はたまねぎはありませんが、柑橘の香り豊かなはちみつをぜひお試しください。

◎土佐小夏

- A 5kg 4,800円
- B 3kg 3,000円
- C 家庭用5kg 3,800円

◎土佐のみかん山のはちみつ

- 600g 3,000円
- 1.2kg 6,000円

※送料別途。関東1,100円、関西1,000円

※売り上げの一部をGENに寄付していただいています。ご注文の際は『GENの紹介』とひとこと添えてください。

【注文先】田中農園 田中隆一さん（〒781-7412 高知県安芸郡東洋町大字河内203 tel./Fax.0887-29-2500 e-mail: tanakan3@cronos.ocn.ne.jp URL <http://tanakanouen.com/>）

会費・購読料・寄付・物品・ボランティアなど協力者のお名前（'23.3.1～'23.5.1、50音順、敬称略）